



「かながわ人づくりコラボ2023」を振り返って

かながわ人づくり推進ネットワーク幹事会

幹事長総括

- 今年度の「かながわ人づくりコラボ2023」は、昨年度に引き続き、実地開催の状況をオンラインでライブ配信するという、ハイブリッド形式での開催としました。また後日のアーカイブ配信の実施に加え、学校紹介動画と教育論議の動画について、教育委員会ホームページ上に期間を設けて掲載しています。
- 当日は、「え！？今の高校はこんなことやってるの！？～生徒・教師のチャレンジ～」を全体のテーマとして、同日、横浜市役所atriumで開催された「横浜 STEAM EXPO 2023」との同時双方向中継を行った後、県立高校の新しい取組を動画で紹介し、それを基に教育論議を行いました。
- 実践紹介の前半では、横浜市役所atriumで開催された「横浜 STEAM EXPO 2023」との同時双方向中継を行いました。高校生レポーターが展示場所を順に回り、各校の生徒にインタビューする形式でしたので、会場の活気ある様子が伝わる、臨場感あるレポートとなりました。後半は、5つの県立高校（神奈川工業、神奈川総合、横浜翠嵐、厚木北、逗子葉山）の特徴的な取組を紹介する動画の上映を行いました。
- 教育論議では、「学校の実践例から考えるこれからの教育のあり方」をテーマに、神奈川県教育委員である常陸佐矢佳氏にコーディネーターとしてご登壇頂くとともに、学校法人岩谷学園理事・本部長でかながわ人づくり推進ネットワークの幹事でもある折笠初雄氏、県立神奈川工業高校より川上悟史氏、県立神奈川総合高校より久保田佑氏、逗子葉山高校より會田勉氏の4名を交え、登壇者5名によって行われました。パネリストからの県立高校の実践例の紹介、実践の際の生徒、外部協力者の様子や、今後の課題や方向性についてなど、学校の新しい取組について様々な論点での話し合いができました。
- 実践紹介と教育論議での意見交換を通じて、学習指導要領で示された、新たな目標に向けて、学校がどのような取組を行うべきか、その中で、環境が目まぐるしく進歩する時代に対応するためには生徒にどのような力を身につけさせる必要があるのか、参加者それぞれが考えるきっかけになったと思います。今後、取組みを継続し、発展させていくことを期待しています。
- 私たちネットワーク参加団体は、各団体の取組みを尊重しつつ、毎年開催している「かながわ人づくりコラボ」での教育論議を通して、教育ビジョンの「心ふれあう しなやかな 人づくり」をめざして、『思いやる力』『たくましく生きる力』『社会とかかわる力』の育成を、それぞれの立場と役割を自覚しながら取り組んでいきます。今後とも参加団体の皆様には、より一層のご尽力をいただきますよう、引き続きよろしく申し上げます。

※詳細な結果概要は、県教育委員会ホームページか、かながわ人づくり推進ネットワークホームページに掲載している「『かながわ人づくりコラボ2023』の実施結果の概要」をご覧ください。

【コラボ2023の開催概要】

- 1 日時・場所 令和5年10月28日（土）14:00～16:00 県立総合教育センター 講堂
【参加者（会場）111名、（オンライン）181名】
- 2 テーマ 「え！？今の高校はこんなことやってるの！？～生徒・教師のチャレンジ～」
- 3 プログラム
 - (1) 実践紹介 前半：横浜市役所atriumで開催されている「横浜 STEAM EXPO 2023」中継
後半：5つの県立高校の特徴的な取組を紹介する動画の上映
 - (2) 教育論議 [テーマ：学校の実践例から考えるこれからの教育のあり方について]

<教育論議の登壇者>

◎コーディネーター

常陸 佐矢佳 氏 (神奈川県教育委員会 委員)

○パネリスト

折笠 初雄 氏 (学校法人岩谷学園 理事・本部長、桐蔭横浜大学 客員教授)

川上 悟史 氏 (県立神奈川工業高等学校 総括教諭)

久保田 佑 氏 (県立神奈川総合高等学校 教諭)

會田 勉 氏 (県立逗子葉山高等学校 校長)

《教育論議での主な意見》

- ・ 実際に自分の憧れの職業に就いた人が、どんな経緯でその職に就き、どんな苦労があったかを知ることで、社会や自分の将来との繋がり方を自分事として捉えるようになったことを、生徒の変化として感じている。
- ・ 「社会に開かれた教育課程」に取り組むことで、今の勉強が何に繋がっているのか生徒が実感し、意欲を高めることができる。そういった“マインドセット”を醸成するということはこの3校に共通しており、重要なテーマなのかもしれない。
- ・ まちづくりの講座を受けた生徒が建築学科を目指したり、火星について学ぶ講座を受けた生徒がロボット工学の勉強ができる大学を目指したり、ということが起きている。今まで知らなかった世界に触れることができる素晴らしい機会だと考えている。
- ・ 企業の方に、「教えるのは先生がプロなので、私たちは先生が教えやすいようにマインドセットを育てるお手伝いをします」と言われ、衝撃を受けた。私達の授業がやりやすくなるように、外部と連携して、やる気の醸成、マインドセットの醸成をしてもらっている。
- ・ 地域ワークショップは逗子高校が長い間行ってきたものだが、逗子高校が閉校すると決まった時に、講師の方々は大変ショックを受けたというふうに言っていた。この取組を、逗葉高校、現在は逗子葉山高校で引き継ぐ際に講師の方々は本当にうれしいと言っていた。生徒を育てることは学校の役割だが、そこに協力することを楽しみにしたり、大事にしてくださる方が沢山いることは、学校にとって大きな支えになっている。
- ・ 生徒が地域に温かく迎えられて学びを深めることで、自分たちの社会の中での役割を再認識して、自己肯定感が高まるようなところに繋がる。
- ・ 外部の方、プロの方、地域の方といった、学校外からの刺激が生徒に非常にいい影響を与えているとの話があったが、こうなりたい、こうありたいといった前向きな刺激だけでなく、社会の困難さや課題にどう立ち向かっていくかといった刺激も含まれているというところが非常に印象的だった。
- ・ 今回紹介のあったそれぞれの学校で、今後もこれらの取組に意欲的に取り組んでいく。先生方自身も学びの当事者であって、開拓者であるということを強く感じた。

《今後の課題・方向性について》

- ・ 外部とどう繋がるかといったところが課題となっているが、神奈川県内の全県立高校がこういった取組ができるように、本校でパッケージ化していきたいと考えている。
- ・ プロの劇場と繋がるということを紹介させていただいたが、今後はもっと他の繋がり方というものを検討している。将来のことを生徒に聞いていくと、教育や福祉、国際交流など、そういった場に演劇を活かしていきたいという応用演劇的な視点を持っている生徒が多いということがわかってきたため、演劇や舞台芸術を活用していくという視点に立って取組を充実させていきたい。
- ・ 文部科学省が話題にしている普通科の改革の中で、地域社会に関する学科がこれから出来上がっていくということがあり、意識をしている。働き方改革という視点も必要となっているため、時に生徒が主体的に関わっていくような、持続可能で自立した地域連携を作っていく必要があると考えている。
- ・ 県立高校改革というと、少子化の影響でどうしても再編・統合という話になるが、神奈川県の場合は、生徒の学びと成長にとって何が重要かという視点を最優先に、すべての県立高校で改革に取り組むという目標を掲げている。各県立高校で、そういったミッションを受けながら日々教育活動に尽力している。